

仏像彫刻木彫刻通信

第四号

平成三十一年 四月
発行所 関仏雲仏所

中目黒 平日教室 森 一寛さん



今回は中目黒教室に通う森さんにお話を伺いました。

— 始めたきっかけをお教えください。
森さん— 定年後に時間が出来まして何をしようか考えていたんです。母の実家は寺で従兄も住職をしておりまして。そのため仏像には子供の頃より興味がありました。仏壇も購入して先祖供養も考えていました。その話を従兄に相談したところ仏像を彫ることを勧められたのです。とは言っても彫刻の経験もないですし子供の頃に木工が得意だったということもない、本当に自分に出来るかなと思いつながらこちらに入会したのですけど、基礎から教えて頂いて、阿彌陀如来を完成することが出来ました。その作品は従兄に魂を入れてもらって今、仏壇にあります。

— 教室に通い始めてどれくらいになりますか。
森さん— ちょうど十年になります。

— 仏足や仏手は左右両方作りまして、仏頭はお地藏さんと阿彌陀さんの二つ作りました。本体に入るまで二年くらいかかりましたよ。



釈迦如来坐像

— 普通の方の倍作られたんですね。実際に彫られてみた感想はいかがでしたか。
森さん— 家で退屈することがなくなりましたね。ちよつと時間が空いたら彫刻しようと思う。ただし自分で分からないときは進められないですけどね。貸し出しの原型もあって助かります。トースカンなどの道具も買いましたしね。

— 以前から仏像には関心をお持ちだったのですか。
森さん— 観光で奈良に行ったり有名な展覧会があった時に見るくらいですかね。両親が信仰に厚かったたのでその影響はあるかもしれません。

— この先作ってみたいものはありますか。
森さん— 友人から仏壇に入れる阿彌陀様を彫ってほしいと頼まれてあります。

— 彫刻以外に興味などはありますか。
森さん— ゴルフ、登山、太極拳。晴耕雨読で天気がよければゴルフ、そうでないときは彫刻をするようにしています。



— いいですね。本日はどうもありがとうございました。

内弟子 青木 斉



関仏雲仏所
内弟子の青木 斉
です。
自分は平成二十二年十一月に
関 仏雲先生の元に入門させて

— いただきました。
入門から半年ほど経ってから関先生の厚意により関先生の師匠である齊藤先生に仏画をご指導いただきました。入門から一年二か月が過ぎた頃に東京から井波の工房に移動しまして三年程井波でお仕事をさせて頂き、その後も東京と井波の工房を行き来しながら修行させて頂いて参りました。

— ほとんどの教室に先生のお供として伺ったことがありますので、お会いしたことのある生徒さんも多いと思います。
自分には仏教に関する知見を関先生に見込んで頂きSNSを通じて仏教の豆知識などを紹介して参りましたが、教室の生徒さん方からの温かい応援のお言葉は本当に励みになっております。

— 昨年は新たな試みとして東京教室にてお釈迦様に関する簡単な講座をさせて頂きました。こちらもまた同じような機会を設けたいと思っております。
作品制作につきましても、従来の仏画とは違った表現に取り組んでおります。こちらにもいつか皆さんの目にお届けしたいと思っております。

— 最近では教室の方と接する機会は少ないですがこれからも、どうかよろしくお願ひいたします。



第二回 北陸教室展



昨年十一月の二十二日～二十五日、富山県魚津市の新川文化ホールにて関仏雲先生と会仏雲先生、木彫刻教室、第二回北陸教室展を開催致しました。関仏雲先生、木彫刻教室の生徒さんを中心に講師や弟子達の作品が展示されました。

会場には多くの方にお越しいただき、魚津の皆様に関心会の活動を知って頂くことが出来ました。ありがとうございました。



教室展開催のご案内

関仏雲先生 仏像彫刻・木彫刻教室

第三回 群馬教室展

— 関仏雲先生 仏像彫刻・木彫刻教室 前橋教室・高崎教室に通う生徒さんの作品展を開催いたします。お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。

会場 前橋市民文化会館 小展示ホール

〒371-0805

群馬県前橋市南町三丁目62-1

会期 2019年5月17日(金)

9:00～17:00

時間 (初日は13:00～)

高岡教室 井波 咲朗さん



高岡教室の井波さんは、入会して九年目になります。
—教室に通い始めたきっかけは何でしたでしょうか。

井波さん—趣味として木にかかわったものをやりたいと思ってインターネットで調べていて、こちらの教室を知りまして入会しました。始めたときは小さいお地藏さんが彫れたらいいとしか考えてなかったです。

—彫られてみた感想はいかがですか。
井波さん—難しい。難しいことを乗り越えていくことに面白みを感じます。

元々仏像を鑑賞することは無かったのですが、教室に通いだしてから、観るようになりまし。自分が彫っているところや、課題のところなどに目がいきますね。
—最初に小さいお地藏さんを彫られた後は何を彫られたのですか。

井波さん—私には孫が男の子一人と女の子が二人います。これまでに一人目に金太郎、二人目にお雛様を彫ってあげました。三人目はまだあげていないのですが、猫が好きなので猫を彫ってあげようかと思っています。

それから聖徳太子と小さい薬師如来、そして今彫っている九寸観音菩薩ですね。他にも間に小さいお地藏さんを二十体ほど彫って人にあげましたよ。みんな本当に喜んで大事にしてくれて、送った私



がびっくりしてますよ。今見ると最初の頃に作ったものはつたないので、出来のいいのを持って行って交換しようと思っただけです。最初のもののほうが良いと言ってるんですね。

—ただの木彫りではなくなってるんですね。嬉しいですね。今作ってる観音様もどなたかにあげられるのですか。

井波さん—これは女房が欲しがっているので、家に置いて飾っておきます。
—これから彫りたいものはありますか。
井波さん—レリーフやパネルなど仏像以外の彫刻も彫ってみたいですね。

—彫刻以外の趣味などありますか。
井波さん—木工をしています。木でお皿を作ったりしています。他は無いですね。今は彫刻と木工で手一杯です。

—いつか自分で図面から描いて作品を作りたいですね。もちろん仏像もまた彫りたいですし、いろんなものを彫ってみたいんですよ。

もう一度仏頭や手などを彫って基礎のおさらいもしてみたいですし、一生続けたいと思っています。
—本日はどうもありがとうございます。



観音菩薩立像

高岡教室 真木 勉さん



真木さんは十年、高岡教室に通われています。
—教室に通い始めたきっかけを教えてください。

真木さん—新聞の広告でこちらの教室を知りまして、自分にも出来るかなと思っただけで通いました。彫刻の経験は全くなくて不安もありましたが、まずは一回試してみよう。

—仏像彫刻に興味がおありだったので。
真木さん—ええ、以前から美術館やお寺に行くと仏像を見るのが好きでしたし、自分でも彫ってみたいという気持ちがありました。パネルや置物ではなくて仏像が彫りたかったですね。

—何でも自分でやれることはしたい性格なんです。
—今は、一尺の阿弥陀様を彫られていますか、これまでに何を彫られましたか。
真木さん—救世観音を二体、小さい薬師如来を二体です。二体ずつ作ったのは一体目で教わったことを復習したり気付いたことを改善するためです。小さい薬師如来は娘が欲しいと言ったので一体をあげました。

—これから彫りたいものはありますか。
真木さん—今回は大分時間がかかっているから、次回は簡単なものがいいですね。復数を同時に作りたいです。



阿弥陀如来立像

やっぱり作品が出来上がって行くことに達成感がありますね。

—彫刻以外に何か作ったりはされませんか。
真木さん—日曜大工みたいなことは何でもやります。トイレに手すりを取り付けたり車庫に扉を付けたりましたよ。あと模型を作ったりもします。私は動物とか虫とかが好きなのでそういったものの市販のキットを買ってきて作るんですよ。
—他にも趣味などありますか。
真木さん—沢山ありますね。バイクも乗ります。若いころに乗っていて、仕事しなくなってからはずっとやめていたんですが、引退してから免許を取り直しました。この前は三時間ほど掛けて岐阜まで行きましたよ。他には読書が趣味の三分の一くらいです。こちらには月二回来てますし、週四回はスポーツクラブに行ったりダンスやトレーニングをしています。

一番の趣味は短歌ですね。三十七年続けています。全国の同人誌に毎月投稿して、八首投稿したらうち七首が掲載されるんです。
—先日たまたま教室の後に短歌の会があったので、仏像を持って行って見せたんですよ。みんなすごいすごいって、写真を撮ってました。

—皆さん驚かれますよ。毎日充実させていますね。本日はどうもありがとうございました。



本日はどうもありがとうございました。

関侑雲 仏像彫刻・木彫刻学院

学院生 水島 理嘉さん



今回は学院生の水島さんにお話を伺いました。水島さんは仕事帰りに学院に通われて、昨年十二月に初級の基礎課程を修了されました。

学院に入ったきつかけや動機を教えてくださいませんか。

水島さん—元々仏像が好きで二十代後半くらいから博物館に行つて見たりしてまして、その頃に仏像のもつ特徴や美しさなどをもっとよく知りたいという気持ちがありました。そんな時にこちらの教室のホームページを見つけてまして、実際に自分で彫ればもっとよく理解できるのではないかと思いました。見てみると毎日のように教室が開かれていて平日でも通えるということでしたので、入会を決意しました。

最初から学院に入られたのですか。

水島さん—最初一、二ヶ月は教室に通ってました。そこで週に二回以上は通えそうでしたし、紺野先生からもこのペースなら学院の方が良いのではとお勧め頂きました。それから学院に入りました。お仕事をしながら通われていて大変ではないですか。

水島さん—そうですね、出来るだけ仕事を早く切り上げるようにはしています。やってる内容が昼間の仕事とは全く違ってあるので、あまり苦には感じないです。実際始められて感じたことなどありますか。

水島さん—見ていただけの頃は仏像の表情の美しさや衣服のしわや装飾品の細工の細かさなどに目がいってました。

こちらで教わって、まだ十分理解できていないわけではないですけど、面を効かせるとか全体のバランスをとることが大切で難しいことだと感じています。そんなことよりも前に彫刻刀を砥いだり木目を読んだりといった技術もまだまだ足りないですけれどね。

—これまでに何を彫られましたか。

水島さん—六寸の地藏菩薩と九寸観音菩薩を作りまして、今は一尺阿弥陀如来を彫っているところです。

—この先彫つてみたいものはありますか。

水島さん—どちらかと言うと穏やかな仏像が好きなので菩薩や如来で坐像のものを彫つてみたいですね。もちろん明王や天部も勉強のために彫つてみたいと思つてます。



—これまでに彫つたものはどうされてますか。

水島さん—実家に飾ってます。両親も見ているので、あまり苦には感じないです。

—この先の目標と言いますか展望のようなものはありますか。

水島さん—まだあまり具体的に考えてはいなくて、今はただ目の前の課題に取り組んでいる感じですね。まずはうまく仏像を彫れるようになりたいと思つてます。いずれば、いろんな人に見て頂いて和んで頂けるような仏像が彫れたら嬉しいですね。

—お寺に仏像を見に行かれたりはされませんか。

水島さん—以前転勤で神戸にいたことがありまして、そのころは休日に京都に行つてお寺で仏像を見たりしてました。当時好きだったのは広隆寺の弥勒菩薩です。今は他にも好きな仏像がいろいろできて一つにはしほれないですね。

—彫刻のほかに趣味などはありますか。

水島さん—特にないですね、余った時間は仏像彫刻に使つてるので、今はこれだけでいっぱい입니다。

—すごいですね、これからも頑張ってください。本日もありがとうございます。



観音菩薩立像

仏画教室展 開催のご案内

悦心会 仏画教室

第四回 仏画教室展

悦心会 仏画教室の生徒さんによる仏画作品の展示会を開催いたします。彫刻とはまた違った仏像の魅力をお楽しみいただけます。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄り下さい。

会場 NHKみんなの広場 3階
ふれあいホールギャラリー1
〒150-8001
東京都渋谷区神南二丁目2-1

会期 2019年5月27日(金)
6月2日(月)
時間 10:00~18:00
(初日は14:00~)
最終日は15:30)

仏教豆知識



何かを秘密にすることを内緒と言いますがこれは仏教用語の内証(ないししょう)と言う言葉から生まれました。

元々は自分の心の中で真理を悟ることを意味していました。また人智を超えた如来の悟りの境地を指しています。

このことから外からは分からない秘密を指すようになり、音の変化に伴って漢字も内緒へと変化しました。

絵・文 内弟子 青木 斉

Youtubeで仏教豆知識と検索していただきますと動画の解説がご覧いただけます。